

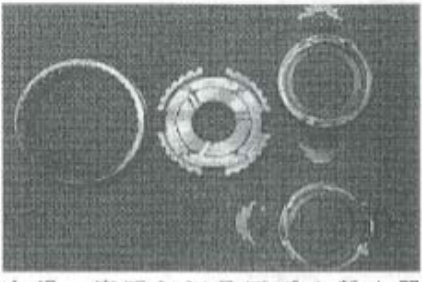
協和合金

価格を3割低減

シンクロロナイザー開発

【横浜】協和合金（横浜市金沢区、高島眞澄社長、045・772・1331）は、従来製品に比べて価格を3割ほど抑えた新型のシンクロナイザーを開発した。レバーを使うことでシフト操作を軽くできる独自技術を採用。一般的な製品に比べて部品点数が少ない。欧州の販売拠点にエンジニアを常駐させ、手動変速機（MT）車の使用率が高い海外での受注獲得を図っていく。

開発したのは独自製品「レバーシンクロ」の新型品。部品を小型化する事で前歯段にも対応した。従来は5速ホジションに使用する後進ギア



「ダブルコーン」タイプ。摩擦でギアとスリーブの

開発した「レバーシンクロ」の新型品は、従来の部品は三つの部品で構成されていたが、レバーシンクロは一つのシンクロリングで同等の性能を実現した。シンクロナイザーはシンクロリング、レバーの主要部品を自社生産することで付加価値を高め、競争力を向上する。

回転数を同調させ、変速をスムーズにする補助部品。コーンを多重構造にする事で摩擦面が増えて素早く同調できるものの、製造コストの上昇が課題だった。MT車は欧州のほか、東南アジアやインド、ブラジルなどの新興国で使われる。11月には中国拠点に続いてバリの販売拠点にもエンジニアを1人配置しており、顧客ニーズの取り込みにつなげる。また、福浦工場（横浜市金沢区）に大型プレス機を導入し、レバーの内製化に着手。コーンリング、シンクロナイザリング、レバーの主要部品を自社生産することで付加価値を高め、競争力を向上する。